

令和2年度  
第1回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和2年10月27日（火）

場所：朝日庁舎 大会議室

令和2年度 第1回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時 : 令和2年10月27日 (火) 13時30分から15時30分まで
- 会 場 : 朝日庁舎 大会議室
- 出席委員 : 亀井栄一、小野寺太、佐藤清、難波久男、菅原正成、渡部巖、小野寺信子、  
渡部昌樹、工藤悦夫、菅原明美、難波金一 計11名
- 欠席委員 : 佐藤清四郎、難波智明、清野定信、清野一女
- 市側出席職員
  - 【庁舎】 朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、  
総務企画課 小野寺課長補佐、佐藤地域まちづくり企画調整主査、  
渡部専門員
  - 【本所】 企画部地域振興課 本間地域振興専門員、齋藤地域振興専門員 計9名

一次 第一

1. 開 会

※ 委嘱状の交付は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、名前の読み上げで代用 (3名)

2. あいさつ

工藤会長あいさつ

朝日庁舎土田支所長あいさつ

3. 協議

- (1) 新市建設計画の見直し (計画期間延長) について
- (2) 地域まちづくり未来事業の進捗状況について
- (3) 鶴岡市公共交通計画の策定について
- (4) 地域コミュニティ推進計画のアンケート結果について
- (5) 朝日庁舎再整備事業について
- (6) e-でわネットの方向性について

4. その他

5. 閉 会

1. 開 会 13時30分 (進行 総務企画課長)

2. あいさつ

①工藤会長

秋始末の忙しいところ、お集り頂き感謝する。新型コロナウイルス関係で3月27日以来開催できず、ようやく今日の開催となった。皆さんには、分厚い資料に目を通してきてもらったと思うが、このような状況で会議をすること自体が貴重であるので、実のある会議にしていきたいのでよろしくお願いしたい。

②朝日庁舎支所長

3. 協 議

会長 それでは協議 (1)、(2) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。これらについて皆様から質問、意見頂きたいと思えます。皆さんいかがでしょうか。

委員 計画が5年間延長になったという事だが、特例債は、ただ財源の充当が違ってくるのか、新しい事業計画や事業の見直しまで波及するのか。

総務企画課長 計画期間の延長が基本的な部分であり、市の方針としては、現段階で新たな事業や事業の見直しは想定していない。期間の延長と字句の修正ということである。財源について、現在の枠が変わって増額になるという事はなく、総枠は変わらないという認識である。

会長 関連して副会長から発言がある。

副会長 建設計画を見ていって何か質問という事を考えていたが、期間の延長によって、進捗状況が朝日は95%という事だが、新たに大きな事業を計画する場合、この延長によってさらに遅れるということにはならないのか。

総務企画課長 発行限度額は変わらない。朝日地域では南戸沢線という道路部分は基本的に終わっており、次は新庁舎建設で合併特例債を利用する計画で進めている。今回の見直しで事業が遅くなるという事は決してない。新しい計画という話があったが、合併特例債の発行限度額の関係から、それ以外の総合計画、地域振興計画、地域まちづくり未来事業等では、それ以外の財源を確保している部分もあるので、皆さんのご意見をお聞きしながら地域振興の方策に関しては、財源を確保しながら進めていきたいと考えている。

委員 資料2で、コロナの影響で様々な事業が中止になっているが、余った予算は他の事業に回すなど、柔軟な対応ができるのか。

総務企画課長 地域まちづくり未来事業については、地域の均衡ある発展という観点もあるが、基金事業として、積み上げた基金を取り崩して運用している状況である。今年度は6月、9月の市議会や臨時議会にも出たが、新型コロナウイルス感染症への対応とし

て、事業を取りやめるなどした部分は財源として、コロナ対策に充当している状況である。地域まちづくり未来事業は、財源としては充当しないが、市全体の財政の中では、コロナ対策に臨時的な経費がかかっているという事もあって、行わなかった部分については議会を経て流用したり、次年度へ繰越したりしている。

委員 新市建設計画の下に、総合計画や地域振興計画などがあるというイメージか。  
総務企画課長 南庄内合併協議会の計画ということなので、新市の総合計画との関係性について、確認してお知らせする。

委員 都市計画自体が平成 16 年という事で古い。単なる人口などは新しいものに修正するという事だが、また 5 年延びるといって社会が大きく変わる中で、果たしてこのままの計画で良いのかということと、総合計画等で柔軟に変更するなどしないとダメではないか。例えばコミュニティの形成など人口動態でかなり変わっているはず。柱の部分ということは分かるが、現場の声を柔軟に入れられる計画というのはどのように作っていくのか疑問に思う。

総務企画課長 一旦整理させて頂くことになるが、建設計画は、合併前の市町村が持ち寄ったものを整備したと聞いている。合併時の約束という認識の部分もあって総合的な概要の部分が多い。具体的な建設整備の財源的な見通しを示したという部分もあるので、現在の総合計画において、随時更新を加えながら時代に合った事業を行ってきたい。

委員 資料をたくさんもらって知らない事業もあった。できれば、朝日地域の 19 の事業について、その事業がどんなものか説明したものがあるとさらに分かりやすかった。  
総務企画課長 後ほど、各事業の概要をまとめたものを作成して報告したい。

会長 自然の家の環境整備事業について、私も指定管理者の一人の委員として動いてるが、新規プログラムの開発について、コロナ関係で中止と書いてあるが、施設の方でできないと言っているのか、事務局で今年はやらないことにしたのか。

総務企画課長 これまでピザ窯を作ったり、利用者向けプログラム作成に取り組んだりしていたが、今年の春の段階で指導員が交代し、県外からの就任という事でしばらく自己研修の時期もあり、その段階で公共施設の受け入れを見送った時期もあったことから、今年度の利用者の確保が難しいという事もあったので、相談という形で一旦中止という事になった。

会長 自然の家の前を通ると、新しい職員が外の作業を一生懸命に頑張っているのが見える。中の見えない部分をどのように研修して磨いているかは見え部分もあるが、これからも頑張ってもらいたい。

副会長 まちづくり未来事業の中に玄関前除雪があるが、取り組みの状況についてもう少し詳しく知りたい。また、コミセンを中心に除雪に協力してくれる団体等を募集しながら取り組もうとしている。中央コミセンは山間部とは違い、元気な年寄りが自前で除雪機械を持って自ら除雪するなどして、困っているのは雪下ろしした後の片付けになる。一人暮らしの支援が主だとすると、それなりのグループを見つけられそうだが、排雪作業にも該当させることを検討できないか。

総務企画課長 各コミセンを通じて、組織化を含めて取り組みを進めてもらっており、関係の皆様には御礼申し上げます。この制度の趣旨の部分になるが、未来事業が始まった時点で、

雪の問題について住民から大きな声があった。その中で未来事業そのものがモデル的な取り組みとして、試行的に行っている部分ある。生活環境を整備するという観点から、各地域で相互扶助の考えで支え合う組織ができないかという事で始まっている。雪下ろし後の排雪について課題になっていることは重々承知しており、制度の調査研究を進めていきたい。2戸以上の世帯の排雪については、既存の制度もあるのでその活用を促すという部分もある。加えてよりより制度にしていきたい。

支所長 こちらで提案した事業について、否定されるだけでは新たな事業に結びつかないので、地域振興懇談会でも、コミセンなどでも、色々な場面で、どんな事業があれば良いかを提案して頂き、それを庁舎の方で制度設計をしていくような関係性だとありがたいと思う。

会長 玄関前除雪に関連して、大鳥では、個人で事業者にお願いが来る。人力ではなく、機械を頼むとかなりお金がかかるので、そのあたりの差額について補助するなど工面をお願いしたい。

会長 それでは協議 (3) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。委員の皆様からご意見、ご質問を頂きたいと思えます。いかがでしょうか。

委員 資料3-2の所で、アンケートの見直ししてもらいたい断トツの一位として、バス時間を変更してもらいたいという意見がある。この意見の年齢層がどこか把握していれば教えてもらいたい。おそらく、朝方や夕方に利用する高校生の保護者からの意見ではと推測されるが、ダイヤ改正に向けて、時間変更について意見収集して働きかけできないものか。

地域振興課 乗降調査として、バスに実際乗っている方にヒアリング調査をしたと聞いている。年齢層は手元に資料が無いが、バスダイヤ改正については庄内交通との協議になるが、朝日地域は上流地域にあたるので、楡引、鶴岡の下流地域を含めた効果が及ぶ広範囲に渡った調整になると思う。

委員 当然鶴岡まで全路線で考えるものであるので、高校生の保護者としては、朝日地域をスタートする時間が早すぎるという事での意見だと思うので、そういった働きかけができないかという意見だった。

委員 自分はバスの利用はしないが、高齢者がたまに利用しているのを見ている。できる限り利用しやすい時間等で運行してもらいたい。

副会長 公共交通の計画の策定は、路線バスを基本として策定していくという事か。朝日地域では民間バスが無くなった部分について、市営バスで補っている訳だが、今後も市がしっかりと責任をもって中山間地域の足を守っていく必要がある。その中で注目したのは、土日の試験運行について、既定のバス路線より地域内に入った運行をしていると思うが、その経過はどうだったか聞きたい。その状況を活かし、定期バ

地域の路線から遠い箇所を運行するようにして、交通弱者と言われる高校生や高齢者の足を確保していく事を検討してもらいたい。バス運行ができないなら、コミセンで情報を集約し、例えば、集落ごとに曜日を決めて送迎車を運行するなどして買い物をできるようにするなどしてもらいたい。この地域の中では、足の確保のため、80になっても免許が返納できないなど、家族も心配や不安を感じている部分もある。庄内交通や市営バス、デマンド交通、乗合タクシーなど、様々な運行形態がある。現在の計画では、地域間をつなぐ幹線については、事業者で責任をもって行ってもらい、枝線については、市の方で責任をもって様々な交通モードの検討を行った上で、高齢者や高校生の足の確保に取り組んでいきたい。

市営バスのバス停までの距離については、羽黒地域が先行している。にこにこバスと名付け、利用者が年々増加している。それは、利用拡大協議会に区長会から全面的な協力をもらいながら、路線を変更して近くまで行くなど利用者を救っていきながら、目的地をスーパーにするなど路線改正をしながら運行しており、そういったことをしながらこれからの交通計画に反映させていきたい。

土曜試験運行について、昨年度から取り組んでおり、一部市営バスの路線を変更して運行している。地域住民からの要望という事で通常の平日運行と違ったルートで許可を得ている。今年度、ある程度の具体的な効果の検証が終わる見通しだったが、新型コロナウイルス関係もあって、利用者の十分な検証が終わっていない状況なので、成果を整理した上で検討したい。

朝日地域は合併町村の中では山間部を抱え、距離的にも長いので地域にあったネットワークづくりが大事だと思う。デマンドバスやスクールバス混乗など、各地域で取り組みが違うが、朝日地域は進んでいるのか、遅れているのか。

市内では、発言にあったように様々な交通モードがあるが、どれが進んでいてどれが遅れているなど順位は無い。デマンドや市営バスなど、それぞれメリット、デメリットがあり、朝日地域で平成 29 年度の市営バス発足時には、地域に合った物は何かを住民の皆様と十分に検討した結果だと聞いている。例えば、デマンド交通は面に強いということで、田園風景が広がる地域で導入されている。市営バスは線で描ける地域に強いという事が言われている。そのほか、デマンド交通だと、ご予約があった家を回っていくので、5から6人乗車があると大幅に時間が遅れるなど、定時性が確保できないというデメリットもありながら、一方ではドア to ドアで運行できる強みもある。そのようなメリット・デメリットと検証した上で、朝日地域では定時定路線の市営バスを選択しているという事だと認識している。

ご説明あったような、メリット・デメリットなど制度上の特性は、一般の人ではなかなか分からない部分もあった。このようなメリット・デメリットが分からないと、どれが良いか選択することもできないと思う。交通モードの特性を考えながら、その地域に合った物が何かを柔軟に検討できると良い。

資料 3-2 で、小さな拠点の形成を検討という部分について、大綱で取り組んでいる内容を紹介したい。旧大綱小の跡地に地域交流センターが新しく建ち、その施設を活かしながら、生活部会などいくつかの部会を組織している。私は交通部会に所属しているが、現状では、利用者が1名しかいない状況である。事業を行っていく中

では、スポ少の送迎とかも試してみたが、様々な事情があつて今はしていない。運営側は2種免許を持っていないので講習会を受けるなどして体制はできているが、来年度から鶴岡市からの予算が無くなるという事で、自治振興会の中で一つの部として「小さな拠点部」にするかなど、どうやって運営していくかを相談しているところである。

会長 観光拠点への移動という部分では、昨年度は、夏季観光バスを運行していたが、あれは試験的にやったということか。今年はコロナもあつてやっていないようだが、来年度は行う予定か。

産業建設課長 会長からあつたように、昨年度、泡滝ダムまでの夏季観光バスを運行したが、今年度はコロナの関係で中止している。利用状況について、試験運行を重ねながら検討する予定だったが、今年度中止になったことから十分にできていない。

会長 逆にコロナの関係で、今年は登山客が多かったので、今年運行していればと悔やんでいる。毎朝タクシーなどがうるさいほど往来していた。今の紅葉の時期も日帰り登山で大鳥池まで行くのが流行っているようだ。コロナで行くところが無いから山に来ている印象がある。朝日屋までバスで来て一泊し、その後歩いている人もいた。来年からの予定はあるのか。

産業建設課長 コロナの状況もあるが、来年度の予算要求をしているところであり、行う予定で検討している。

会長 それでは協議(4)について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。それらについて、委員の皆様から質問、ご意見はありますでしょうか。いかがでしょうか。

委員 東部地区というのは限界集落があり、消防団をやっているが団員の確保が大変厳しくなっている。地域コミュニティ推進と消防団とは直接関係ないが、人が少なくなるとコミュニティを維持するのが容易でないので、人が集まり、人が減らない地域を目指して、先ほどの交通関係を含めて住み良い環境を整えること、農業など経済的な部分や教育など総合的な対応が重要だと考える。近年は毎年1軒、2軒と櫛引地域に引っ越すケースが続いており、そのあたりを勘案した計画の策定を進めていければいいと思う。

副会長 アンケートの結果を見て、自治会で一番困っていることは何かを考えてみると、共同作業等について人口が少なくなつて大変になってきている。そのような中で、色々な活動を維持するために国の交付金を市として積極的に活用することを奨励することが必要だ。交付金活動で大きい中山間地域直払や多面的機能支払などであり、朝日地域で大きなウエイトを占めている。集落全体で取り組むようにすれば経費的な面でも農家だけでなく非農家も合わせて地域づくりに生かせると思う。その中で草刈り隊など組織していければ、若い人も含めて活動していけるのではないかと。

そういったことをそれぞれの課で行うのではなく、朝日庁舎全体として取り組んでもらいたい。

- 若者の育成という部分では、昔の青年団のような組織を作るかが課題である。各集落で、コミセンだけに任せるのではなく、朝日地域全体でどう取り組むのかを各コミセン事業とコラボしながら研修会などを行って、地域コミュニティ形成の課題などに取り組む中で、若い人に発信して郷土愛などを育てていければと考えている。今は一つ一つの活動がバラバラに見えるので、若い人たちが自分たちがこうしていきたいというアイデアが出にくいと思うので、そういったきっかけとなる事業を行っていききたい。
- 会長 2ページに大鳥の記載がある。超高齢者世帯が多い中、他の地域から若い移住者が多いため、コミュニケーションに力を入れているという事だが、まさにそうだと感じている。若い人に頼って、あてにしながら生きている部分もあるので大変ありがたい。
- 委員 若者の考えが分からない部分もあって、行政に意見があるけど言ってもしょうがないという雰囲気は作ってもらいたくない。若者の意見を言える場、意見を吸い上げる場を作ってもらい、意見を組み込んでいけるものに関しては組み込んでもらい、言えば実現できるだという結果ができれば、若者も地域コミュニティの活動に参加しやすくなるのではないかと。そういった雰囲気づくりをお願いしたい。
- 会長 委員の言うとおりの、大鳥でも若い移住者の意見をどのように反映していくかを考えて苦労している。思う通りにはいかない部分もあるが、言い放題もしてられないので難しいところもある。家族ではない他人であるので言葉を丁寧に持っていきたい。それでも大鳥に住み着いてくれているので、どうやって長くいてもらうようにできるか気を使っているところだ。
- 会長 それでは協議 (5) (6) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

- 会長 ただ今事務局から説明がありました。それらについて、委員の皆様から質問、ご意見はありますでしょうか。
- 委員 e-でわネットについて、学校ではギガスクール構想という事で児童生徒が一人一台タブレットを持つことになり、家でもインターネットを利用することになると、現状の回線が混雑しないか不安である。前倒しでNTTに切り替えるという事は考えられるか。朝日庁舎の再建については、どこに建てる計画か。
- 総務企画課長 e-でわネットについては、NTTの民間のサービスという事で早くという事も言っていくが、現状の予定としての日程をご説明したところである。
- 委員 朝日庁舎の再建については、現在地の周辺という想定で計画している。
- 委員 朝日庁舎の再建について、車庫の一番端に落合の消防団ポンプ車が入っているが、改築に伴って移転等なると思うのでその部分もお世話になるが面倒見てもらいたい。
- 総務企画課長 8月の落合地区への説明会で消防団員から提案があったので、朝日庁舎と消防本部で承っている。また後ほど相談したい。



(その他)

委員

人口減少が他の地区より進んでいるが、統計的に自殺者が増えている。現在は交通事故者の倍となっているようだ。その中でも男性の自殺者が多い、平均寿命も短いので、高齢者の男性が地域に出るような工面ができないか。集会などでも女性が多く、男性が出不精になっている。社会で働いてきて様々な技術を持っているので、その技術を生きがい対策として生かすようなことはできないか。オール鶴岡で、課を越えて社協やコミセン、福祉サイドと連携しながら政策に取り組むようにしてもらいたい。高齢者が元気だと健康寿命が延びて社会貢献が長くできる。全国的な高齢者の自殺の原因は健康的な問題が多いという実態もあるので、高齢者世帯等へできることをやってもらいたい。

市民福祉課長

自殺者の件について、データは持ち合わせていないが、鶴岡市では自殺率が減ってきている。平成29か30年度に保健行動計画を作り、その中でも大きく自殺対策の項目を作り、自殺者を出さないように心の健康づくりに取り組んでいる結果である。ただし0にはなっていない。今年は全国的にもコロナの関係で自殺者が増えているという報道もあるので、市としても相談の場を設けながら対応していきたい。男性が活動する場に出てこないという部分については、市でも様々な事業を行いながら、どうしたら出てもらえるか各課と相談しながら行っていきたい。

委員

最近熊の被害が多く出ているようだが、今後の市の対応についてお聞きしたい。朝日は山を抱えているので心配な部分もある。

委員

関連して、鳥獣被害の話だが、大針で4丁歩の田を作っていて、冬にも作物を作るためにハウスもやっている。サルがだいたい50匹くらいの群れで降りてくるが、花火をもっていっても一時的に逃げるだけで、人の姿が見えなくなるとボスの一声ですぐに戻ってきて、ハウス内のカボチャ等を持っていってしまう。田では、外から見ても分からないが、サルが稲を踏み倒して遊んで行った跡がある。サルのほかにも熊もそうだが、最近は猪も出るようになって大変である。猪は、鼻で固い地面も掘り返して根っこを食べてしまう。そのような動物を邪魔者扱いして、米作りや野菜作りができなくなってきており、大針下集落で22軒あった農家も3軒になっている。そのため色々な不具合が出てきており、山へ行くための道も、動物被害を恐れて集落で道なぎをやらなくなって3年ほどたった。行きたい人は自分で整備しろという状態である。どうしても山の物を取るために行くには、熊やサル50匹に一人で立ち向かう必要がある。山に行って花火を取りに戻ってきたときもあった。農業を続けようと思ったとき、朝日の基幹産業として行ってきた農業ができ無くなれば、当然住み続けることができなくなって、限界集落となって動物に支配されるのではないか。そのような状況で、農業ができる状況を維持していく事が大事であり、ただ花火を配れば良いという事ではなく一緒に対策を考えてもらい朝日の基幹産業を守る働きをしてもらいたい。鳥獣害の関係については、市内でも中山間地域を多く抱える朝日では大きな問題になっている。市街地でも熊が出ているが、暖冬で頭数が増えているのではという猟友会の見立てがある。朝日地域では、去年は12頭だったが、今年は20頭を超えている。それだけ頭数も増えていると思う。そのほか、サルについても花火のほか、猟友会で巡回しながら追い払いを行ってもらっている。農作物に対しては、電気柵についての

産業建設課長

補助を行っている。また、猟友会の高齢化が進んでいるので新しく免許をとる方への支援も行っている。猪もふくめて増えているので、山大農学部の支援を頂きながら、農家だけでなく集落全体で鳥獣対策を行っていけないか鳥獣に対する知識を得るような研修会などを行いながら検討をしている。駆除の方法に関しても、群れを一網打尽にしても、空いた縄張りに奥から他の群れが移動してくるので、いたちごっこになってしまう。ある程度の頭数を維持しながら共存していく事を考えている。

委員

電気柵の話だが、サルは電気が通っていない支柱を伝ってハウスに上り、穴を開けて中の物を食べてしまう。その際、支柱にも電気を流すと良かったという話も聞いているので、冬場の対策として行っていきたい。

その他 なし

#### (4. その他)

総務企画課長

他に皆さまから何かございますか。

無ければ閉会のご挨拶を難波副会長にお願いしたいと思います。

副会長

お忙しい中、長時間にわたって貴重なご意見を頂きありがとうございます。それぞれの委員の皆さんから出た意見を地域の発展に活かせるように、庁舎の皆さんにはしっかりご検討をお願いしたいです。これで第2回 朝日地域振興懇談会を終わります。

(終了 15時40分)